



令和3年1月6日	
所 属	歴史博物館
所属長	伊元 俊幸
電 話	06-6489-9801

尼崎市立歴史博物館第1回企画展「むかしのくらし むかしの小学校」を開催します

1 趣 旨

昨年10月10日に開館した尼崎市立歴史博物館では、年間3回程度、歴史博物館が収蔵する博物館資料を活用した企画展を開催します。

1月9日から開催する第1回企画展では、電化製品が普及しはじめたころの少しむかしのくらしの道具と、戦前の尼崎の小学校の様子を紹介する展示を行います。会期中、昭和8年（1933）の小学校の様子を撮影した貴重な記録映像と、平成29年（2017）に尼崎市内で撮影した「おくどさん」を使った炊飯の記録映像を常時上映します。

2 会期等

(1) 会期・時間

令和3年1月9日（土）～3月28日（日）

午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

月曜日休館（1月11日は祝日のため開館し12日が休館）

(2) 会場

尼崎市立歴史博物館 3階 展示学習室

（尼崎市南城内10番地の2 阪神電鉄尼崎駅より南東へ徒歩約10分）

(3) 主な展示資料

① むかしのくらし

- ・自動式電気釜
- ・アマコー電機製扇風機
- ・トリネスコープカラー受像機
- ・動画映像「尼崎のおくどさん」

② むかしの小学校

- ・ 第四期国定教科書
- ・ 尼崎国民学校卒業記念写真帖
- ・ 疎開先を思い出して描いた絵
- ・ 動画映像「我が学校」

(4) 展示資料点数

約50点

(5) 動画の常時上映

昭和8年（1933）に撮影された、尼崎第三尋常小学校（戦後の学制改革後の尼崎市立開明小学校）の実写記録映像「我が学校」を2階のガイダンス室で常時上映します。また、平成29（2017）年に撮影した、尼崎市内の民家で「おくどさん（かまど）」を使って実際に炊飯している様子の動画映像を展示会場で常時上映します。

(6) 観覧料

無料

3 担 当

尼崎市教育委員会 社会教育部 歴史博物館 担当学芸員：桃谷和則

〒660-0825 尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801 FAX 06-6489-9800

以 上

尼崎市立歴史博物館第1回企画展

むかしのくらし むかしの小学校

2021（令和3）年1月9日（土）～3月28日（日）

尼崎市立歴史博物館 3階 展示学習室

電化製品が普及しはじめたころの少しむかしのくらしの道具と、戦前の尼崎の小学校の様子を紹介する展覧会です。会期中、1933（昭和8）年の小学校の様子を撮影した貴重な記録映像と、2017（平成29）年に尼崎市内で撮影した「おくどさん」を使った炊飯の記録映像を常時上映します。

どうぞご観覧ください。



クイズにチャレンジ!

「これって何につかったのかな？」
のコーナーに展示している道具の使い方を選んでいただき、ワークシートに答えを記入して1階事務室まで持ってきてください。全問正解者には、歴史博物館特製クリアファイルをプレゼントするよ！
チャレンジしてみてね。

※プレゼントは1人1回だけです。

先着200名で締め切ります。



会期中に展示替えを行いますので、本パンフレット掲載資料が展示されていないことがあります。

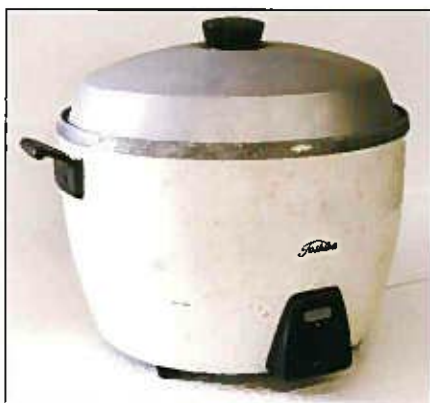
第1章 むかしのくらし

第1章では、今から約60年前の昭和30年代に日本が高度経済成長を迎え、家庭生活のなかに電気が普及していった時代に使用されていた家電製品を中心に展示しています。例えば、ご飯を炊くときには、かまど（おくどさん）に火を起こして羽釜^{はがま}で炊いていたものが、電気釜（炊飯器）の発明・普及によって、火を起こさず、また火の管理も行わずに、スイッチを押すだけでご飯が炊けるようになり、家事労働が大きく軽減されました。また、電話機やテレビ受像機の普及によって、人びとの通信や情報収集の方法、娯楽の有り方が大きく変化していったのもこの時代であり、現在のわたしたちの生活の原型がかたちづくられていった時代でした。



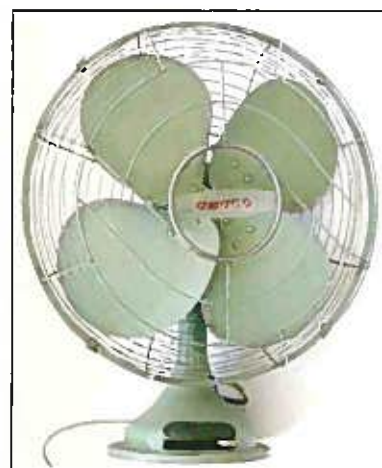
氷冷蔵庫

上段の水で下段を冷やす冷蔵庫です。この冷蔵庫は昭和30年代から平成初め頃まで使用されていました。



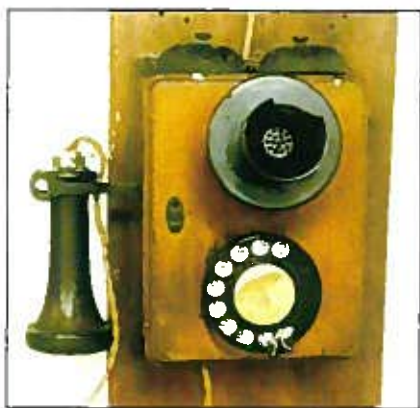
自動式電気釜

1955（昭和30）年に販売開始された電気炊飯器の世界第1号です。スイッチひとつで自動的に炊飯ができる電気釜の登場は家事労働を大きく軽減し、1千2百万台以上を売り上げ、当時の全家庭の約半数にまで普及したという大ヒット商品でした。



アマコー電機製扇風機

尼崎に所在した家電メーカーのアマコー電機が、昭和30年代に製造した4枚羽の扇風機です。素材型の重化学工業中心であった尼崎では数少ない家電メーカーでした。



自動式壁掛電話機

昭和20年代を中心に使用されていた壁掛式の電話機です。電話交換手を通さずに、ダイヤルで電話番号を回して自動的に相手と通話できるので、自動式電話機と呼ばれていました。



トリネスコープカラー受像機

白黒テレビのブラウン管を代用した1963（昭和38）年製の簡易型カラーテレビです。ブラウン管が縦に3台並ぶので奥に長い形をしています。

翌年の東京オリンピックをカラー放送で見たいという需要を見越して製造されたカラーテレビで、価格は9万6千円でした。これは当時の大卒国家公務員初任給の約5年分でした。



画面は小さいのに値段が高くてビックリです



第2章 むかしの小学校

第2章では、今から約80年前の昭和10年代に尼崎に所在した小学校に関する資料を展示しています。当時、工業都市として右肩上がりに発展していた尼崎では人口が急増し、小学校の児童数も増加したため、なかには児童数が3千人を超えるマンモス小学校もありました。1934（昭和9）年の室戸台風により木造校舎が倒壊したことから、木造校舎が鉄筋コンクリート造校舎へと変貌していったのもこの時期で、当時建設された校舎が今でも市内には残っています。

1941（昭和16）年には長年親しまれた小学校の名称が、ナチスドイツの教育制度に影響を受けた国民学校に改められ、教科書も軍事色・国家色を反映した内容になり、1944（昭和19）年からは学童集団疎開が始まりました。



1933(昭和8)年度から1940(昭和15)年度まで、第四期国定教科書が全国の小学校で使用されました。

昭和戦前・戦中に使われた教科書は国が作りませんでしたので国定教科書と言います。つまり、全国の小学校で同じ教科書を使っていたのですよ。

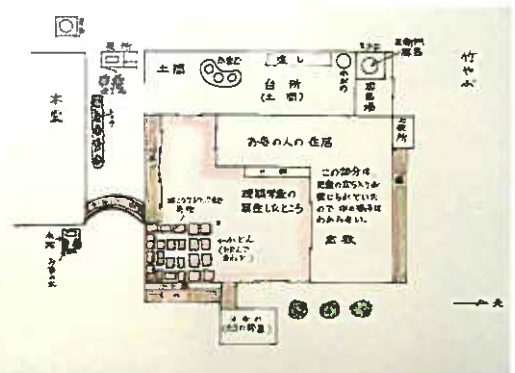


1934(昭和9)年の室戸台風により、尼崎では木造校舎に大きな被害が出ました。写真は尼崎尋常高等小学校の被災状況

1934（昭和9）年に近畿地方を直撃した室戸台風によって尼崎の木造校舎が多数被災しました。左の写真の尼崎尋常高等小学校は、現在の琴ノ浦高校（北城内）の場所に所在した小学校ですが、木造校舎が完全に倒壊し、児童と教員が犠牲になるというとても悲惨な災害でした。



1941(昭和16)年、小学校はドイツの教育制度にならって国民学校と改称し、教育の軍国主義化が進みました。



1944(昭和19)年から国民学校児童の集団疎開が始まりました。疎開児童が疎開先を思い出して描いた絵です。

1933（昭和8）年の尼崎第三尋常小学校を撮影した記録映像上映

1933（昭和8）年に撮影された、尼崎第三尋常小学校（戦後の学制改革後の尼崎市立開明小学校）の実写記録映像「我が学校」を2階のガイダンス室で常時上映します。

この年11月に同校で開催された兵庫県指定体育養護施設経営研究発表会で上映されたもので、1991（平成3）年に同校校長室の倉庫から16ミリフィルムが発見されました。現在、元のフィルムは歴史博物館が所蔵しており、歴史博物館での上映用に映像をデジタル化しナレーションを入れました。時間は約24分間です。



2017（平成29）年に市内で撮影した「おくどさん」での炊飯の記録映像上映

2017（平成29）年に撮影した、尼崎市内の民家で「おくどさん（かまど）」を使って実際に炊飯している様子の動画映像を展示会場で常時上映します。

早くから都市化した尼崎市南部地域で、平成29年現在、実際にかまどを用いて炊飯している方がおられたことから、その様子を記録化しておくことは学術的・教育的に高い意義があると考え、記録映像を制作しました。なお、本映像は映像作家・立命館大学映像学部准教授藤岡幹嗣氏に制作していただきました。時間は約10分間です。



※上映している動画映像を動画・静止画で撮影することは禁止です。

尼崎市立歴史博物館企画展「むかしの暮らし むかしの小学校」展示解説

編集・発行 尼崎市立歴史博物館（文化財担当）

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10-2

電話 06-6489-9801

発行日 令和3年1月9日